

Aichi University

Lingua



INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION, AICHI UNIVERSITY

No.4 July 2014



水面に映るマッターホルン

(詳細は「回想のヨーロッパ」P4～をお読みください)

CONTENTS

- | | | | |
|---|-----------------|-------------|-------|
| ◎ 特集 | オススメ海外文化情報 | ～ ヨーロッパ特集 ～ | |
| ・ハンガリーの温泉 | 法学部 | 北尾 泰幸 | 2～3 |
| ・回想のヨーロッパ | 地域政策学部 | 荒川 清秀 | 4～5 |
| ・フランスの高校を訪問！ | 法学部 | 中尾 浩 | 6～7 |
| ・ローマに行くなら図書館、広場、路地歩き | 国際コミュニケーション学部 | 塩山 正純 | 8～9 |
| ・炭鉱の町にルーヴル美術館がやって来た！ | 共通教育科目（フランス語）講師 | 田崎 明子 | 10～11 |
| ◎ 明治は遠くなりにはけりー言葉の旅ー（補2） | 経済学部 | 葛谷 登 | 12～16 |
| ◎ 街で見かけた面白コトバ！ | 経済学部 | 川端 朋広 | 17 |
| ◎ 2013年度 外国語コンテスト結果報告 | | | 18～19 |
| ◎ 名古屋校舎国際交流センター主宰「International Cafe」のご案内 | | | 20 |
| ◎ 豊橋校舎「豊橋ランゲージセンター」「Language Cafe」のご案内 | | | 21～22 |
| ◎ 英語・中国語ラーニングの紹介 | | | 23 |
| ◎ 2014年度 外国語検定奨励金のご案内・編集後記 | | | 24 |

オススメ海外文化情報

～ヨーロッパ特集～

ハンガリーの温泉

法学部 北尾 泰幸

日本は世界有数の温泉地であり、学生の皆さんの中にも温泉好きの人がいると思います。2月・3月の春休みの間に、温泉に行くのを楽しみにしている人もいるでしょう。世の中には温泉マニアや温泉評論家、温泉コラムニスト…などもいらっしゃいますし、温泉について語り出したら、止まらない人もいらっしゃるようです。

さて、上で記した「温泉」という語から、皆さんはどのようなものを想像しますか。おそらく「♨」の温泉マークに象徴されるように、湯煙が上がった熱いお湯にタオル1枚で入り、「ああ、いい湯だー」と言いながら、家のお風呂とは異なりいつもより長い間湯に浸かり、人目をはばかりながら鼻歌など歌って心身の疲れを取り、風呂から上がれば浴衣を着てその余韻に浸る（おまけに、腰に手を当てて牛乳を飲む?）…という様子を思い浮かべることでしょう。

実は今回ご紹介するハンガリーも世界屈指の温泉地で、国内に400を超える温泉施設があります。中でも首都ブダペストに多く、ブダペストには100を超す源泉と50近くの温泉浴場があるとのこと。中にはそのルーツをローマ時代にまでさかのぼることができる古いものもあります。さて、このハンガリーの温泉も、日本と同じような様子なのでしょう。日本から遠く離れたハンガリーで、小日本を体験できるのでしょうか。答えは“No.”「温泉」とはいつでも、日本の温泉のイメージとはずいぶん異なります。しかし、ハンガリーの温泉は、また日本とは違った魅力があります。私はブダペストに出張した折、残念ながら数多くある温泉の

うち1つの温泉しか体験できなかったのですが、私が行った「セーチェニ温泉」(Széchenyi Gyógyfürdő)について、紹介したいと思います。

セーチェニ温泉はハンガリーの首都ブダペストにあり、動物園・遊園地・農業博物館・交通博物館などがある自然あふれる市民公園の中に



存在するヨーロッパの中でも最大規模といえる温泉です。中心部の建物は1913年に建てられており、たいへん歴史がある温泉です。確かにこのセーチェニ温泉の外観はまるで宮殿のようで、歴史を感じさせます。この建物を見に行くだけでも、セーチェニ温泉に行く価値があると言えます。

さて、この温泉に入るには、水着が必要です。この時点で、日本の温泉とはずいぶん違いますね。水着を持っていない場合は、有料ですがレンタルすることもできます。私は水着を持っていなかったため受付で借りたのですが、競泳パンツタイプの水着とバスタオルを貸してください、まるでプールに来たようでした。借りた水着とバスタオルを持って脱衣場に向かうと、すれ違う人の中にはビーチサンダルを履いていたり、水泳キャップをかぶっている人もいます。ますます「いい湯だな、アハハハ」というよりは、ゴーグルを付けてクロールで泳ぎたい気

分になります。

さて、このセーチェニ温泉には内湯と露天があります。やはり外の空気を味わいながら風呂に浸かるのがいいだろうと思い（ただ、水着を着ているので、何とも変な気分ではあるのですが）、露天に行くことにしました。混浴ですので、男湯・女湯の入口はありません。水着を着ているので混浴でも恥ずかしくはないのですが、日本の温泉のイメージからどんどんかけ離れていきます。浴場に行ってみると、「露天風呂」という語から想像するものとは全く異なるもので、まるで「プール」です。上で、脱衣場に向かう途中でプールに来たような感じがしたと書きましたが、まさしくそのとおり。とにかく「湯船」とは呼べない（呼びたくない）、まるでレジャーランドのプールを彷彿させる大きな「湯船」です。さすがにお風呂ですので、浮輪を付けてプカプカ浮かんでいる人やビーチボールで遊んでいる人はいますが、そういう人がいてもおかしくはない雰囲気が漂う空間です。

温泉に行くと、まずは石鹸で体を洗うと思いますが、洗い場のようなものではありません。水着を着ていることもありますし、ごしごしタオルで体を洗うということはできません。よって体をきれいにしてすっきりするというよりは、「お湯に浸かる」ことを楽しむ場所と捉えるのがいいでしょう。さて、「湯船」に足を入れると、やはりそこは温泉。あったかいのです。「熱いプール」と言えばいいのでしょうか。コロケーションとして「熱いプール」というのは聞き慣れない言い回しですが、お湯の温度は日本の温泉のように汗が出るような熱いものではなく、だいたい体温と同じぐらいの温度です。温泉にはとにかく人が多く、その点でもプールに来たような気がします。ただ見た目はプールのようで、日本の温泉のように効能があるようで、セーチェニ温泉もラジウムや硫化水素を含んでおり、関節痛やリウマチに効くとのこと。

温泉にはところどころ人だけが見えます。



いったい何が行われているのだろう…と覗き込むと、なんとチェス。湯船の中に元々チェス用の台が据え付けられているのです。この「風呂チェス」は、セーチェニ温泉の名物だそうです。日本の温泉でチェスをするときとのぼせてしまいますが、上に書いたようにお湯の温度が体温と同じくらいかそれよりもちょっと低いぐらいですので、チェスに興じることが

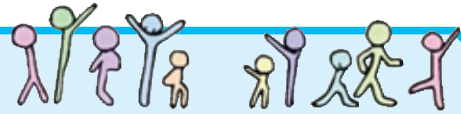
できるのでしょう。残念ながら私はチェスに明るくないので参戦しませんでした。腕に自信がある方は、ぜひセーチェニ温泉で、ブダペストの人を相手に真剣勝負してみるべきだと思います。

このように、日本とはちょっと異なる温泉ですが、逆に日本ではこのブダペストのような温泉は、体験したくても体験することができません。ブダペストには、このセーチェニ温泉の他にも、アールヌーヴォー様式の豪華な温泉である「ゲッレールト温泉」(Gellert fürdő) や、トルコ占領下の1570年に作られた「キラーイ温泉」(Király fürdő) など、味わい深い温泉が数多くあります。歴史的建造物が多いブダペストには、このような重厚な造りの温泉がよく似合います。もしヨーロッパに行く機会がありましたら、いつもとはちょっと違う温泉を味わうために、ブダペストまで足を伸ばしてみてもいいかもしれません。



※ 写真は、セーチェニ温泉公式ホームページ (URL: <http://www.szechenyifurdo.hu>) より。

回想のヨーロッパ



地域政策学部 荒川 清秀

■ 最初のヨーロッパはスイス

学生時代、わたしは本にお金は使っても旅行には使おうとしなかった。弟には、本当は時刻表が読めないのだろうとからかわれたりもした。その後、中国語にかかわってきた以上、大陸、台湾、シンガポールなどの中国圏には行くことはあったが、ヨーロッパは遠い存在だった。そんなわたしが狂ったようにヨーロッパに出かけ、口の悪い友人に「西洋に魂を売った」とまでからかわれるきっかけになったのは、妻の友だちでスイス人と結婚し、チューリッヒに住むTさんから遊びに来ないかと誘われたことからだった。スイスエアで12時間もかかったが、初めてみるヨーロッパはとても新鮮だった。その年は、Tさんの家をベースキャンプに、まだ幼い二人の娘を連れスイスを一周し、ドイツのロマンチック街道を巡り、さらにイタリアはローマとフィレンツェにまで足を伸ばした。なにしろ、当時中国で個人旅行をするのは苦行に近かったから、ヨーロッパ旅行はまるで天国だった。たとえば、ヨーロッパ旅行をする際、最初のホテルだけネットで予約し、そのあとは午前中に現地に入り、駅の近くにあるインフォメーション (i) で自分の条件に合ったホテルやペンションを予約すればよかったからだ。ペンションは簡素な作りのところが多いが、部屋やシーツは概して清潔だったし、朝の食事もドイツなどでは豪華だった。

最初の旅行でドイツ語のシャワーを浴びたわたしは、帰国後、独文1年生のドイツ語クラスに入れてもらい、そのまま4年間仲間とともに

ドイツ語を勉強した。だから、2回目以降、ドイツ語圏ではドイツ語以外は使わないという決意をしそれを実行してきた。

最初のヨーロッパ旅行で味をしめたわたしたちは、その次の回は、オーストリアのウィーンから入り、ドイツをミュンヘンからハイデルベルクを経て、ハノーバー、ツエレという街まで北上し、陽気なバイエルン地方と、寡黙な北ドイツの気風の違いを感じることができた。ミュンヘンからは、ディズニーのシンデレラ城のモデルになったノイシュバンシュタイン城のあるフェッセンまで足を伸ばした。

ヨーロッパを旅行する時は、ユーレイルバスやドイツバスというお得なチケットがあり、わたしたちは1等（日本で言えばグリーン車）を利用したが、2等のユースでも充分快適だ。移動日を限定すれば料金はさらに安くなる。また、スイス国内の場合は、列車内に時刻表がおりてあり、それで乗り換えや行程がわかった。これも当時としては感動ものだった。

ある年は、中国近代語研究会に参加するため、ロンドンーパリを経てドイツの大学町ゲッティングヘ行ったことがあった。家族を先に帰したあと、ひとりケルンやグリム兄弟のふるさとハーナウを訪れたり、ゲッティングヘの街の喫茶店の2階であま〜いケーキを食べながら、通りを行くドイツ人の生態をゆったり観察したりしたのも楽しい思い出である。

■ ロンドンへは4年連続で

イギリスのロンドンへは、大英図書館での調

査をかね4年続けて訪れた。最初の2回は二人の娘と、あとの2回は妻が加わった。ピカデリー線という便利な地下鉄沿線のアールズコート駅近くのホテルを常宿に、博物館、美術館、街やマーケットを散策したのはもちろん、オペラ座の怪人、キャッツ、美女と野獣、レ・ミゼラブルなどのミュージカルもたくさん見た。劇場どうしが近いので、直接行って座席を確認しながら買うのである。こうすると比較的安くチケットを買うことができる。開演前に安いチケットが売り出されることもある。タッソー蠟人形館などは、avoid queue という、並ばなくても入れる方法をホテルの人から教えてもらったりした。

■ 一番遠くはアイルランド

一番遠くへ行ったのはアイルランドである。名古屋からフランクフルト、ヒースローを経由しダブリンのホテルに入ったのはセントレアを出て24時間後だった。この飛行で感動したのは、途中飛行機会社が替わっても荷物はいちいち取り出したりしなくても、無事、最後まで運ばれたことである。なぜなら、ドイツのフランクフルト経由でヒースローに行ったときは、荷物の出し入れでフランクフルト空港の中を走りまわった記憶があるからだ。こういうことは旅行へ出る前にしっかり確認しておいたほうがいい。アイルランドではなんといっても西にあるモヘの断崖 (Cliffs of Moher) が絶景だった。(写真下) しかも、日本なら柵がつくられて立ち入りが禁止されるような区画に柵もなく、度胸のある人々



は腹ばいで断崖のぎりぎりまで見に行っていた。

■ 一番印象に残っているのはツェルマット

ヨーロッパ旅行の中で一番印象に残っているのはスイスのツェルマットである。1週間いても山が拝めない日があるというのに、わたしたちは3日間ずっと晴天に恵まれ、マッターホルンを堪能した。それまでわたしたちは、山登りとは苦行をしてはじめてすばらしい眺望を味わうことができると思っていたが、ここでは登山列車でいきなりマッターホルンが見えるところまで登るのである。歩くのは下山で、しかもあちこちにカフェがあって、人々はゆったりワインを味わっている。彼我の差をつくづく感じさせられた。(写真下)



観光地ばかり書いてきたが、わたしにとってヨーロッパ旅行の楽しみは、人々との会話である。それはレストランで隣あった人々との間でもあったし、列車のコンパートメントの中でもあった。日本語学の井上優さんに『相席で黙ってられるか』(岩波書店)という、日中言語行動比較論の本がある。井上さん流にいけば、わたしはさしずめ中国人ということになるのだろう。

※過去 LL ニュースに掲載した、筆者のヨーロッパ・中国紀行は『体験的中国語の学び方』(同学社)に所収。

フランスの高校を訪問！



法学部 中尾 浩

ここ数年、毎年のようにフランスを訪れています。このところ海外短期セミナー(フランス)に参加希望を表明してくれる人が多いので、私も学生諸君に同行させてもらっています。国際歓迎が笹島キャンパスのコンセプトの一つということもあるかもしれませんが、フランスに限らず、全般的に海外短期セミナーに参加希望者が増えてきたのはとても喜ばしいことです。

フランスセミナーはおおむね2月いっぱいの一か月間をフランスのオルレアンというジャンヌ・ダルクで有名な都市(ジャンヌ・ダルクがここの出身なのではなく、この地でイギリス軍を打ち破った)でホームステイをしながらフランス語を学んでいます。時々、思わぬ誘いを受けることがあります。

前回(2014年2月実施セミナー)では偶然、オルレアンのジャック・モノ高校に招かれて、その高校で日本語を学んでいる高校生と交流する機会がありました。



ジャック・モノ高校

これは願ってもないチャンスです。何しろフランスの学校は、幼稚園から高校までセキュリティがしっかりしているので、保護者でさえ簡単には校内に入れないくらいです。日本(語)しかつながらのい見知らぬ日本人大学生が容易に入れる場所ではありません。せっかくなので、学食やグラウンドなど、学内を案内してもらいました。何を隠そう、私自身は家族を連れてフランスに滞在していた時に幼稚園と小学校は内部に入ったことがあります、中学と高校は入ったことがありません。私自身にとっても忘れがたい出来事でした。

さて、図書室を見学させてもらっている時に、日本(語)コーナーを見せてもらって、日本人学生がうれしそうな歓声を上げました。ある、ある、日本のマンガが。フランス語バージョンですが、ずらりと並んでいます。



ジャック・モノ高校の図書室

おや? 何か書いてあるプレートが書棚に貼ってあります。



書棚のプレート

「もしマンガが破損していたら、修理するために図書整理係のところに持って来てください」。あたりを見回してもこんなプレートがあるのはここだけです。よほど人気があるのでしょうか。みんなが競って読むので傷みも早いのだと思います。

外国人が日本への留学を希望する理由にはいろいろありますが、その中でもマンガをはじめとしたオタク文化に惹かれてと答える割合が一番高いのはフランスではないでしょうか。高校の図書室にマンガが置いてあるばかりではなく、実は街中の公立図書館の多くにも「バンド・デシネ」と呼ばれる、アメコミのようなフランスのマンガが備えられています。子供たちもよく読んでいますが、図書館で新聞を読むのに飽きたお年寄りがバンド・デシネのページをめくっている姿もよく見かけます。フランス人のマンガ好きの起源は案外こんなところにあるのかもしれません。

さて、ジャック・モノ高校では、3年生のクラスで交流会のような形で始めました。最初は高校生が質問用紙を用意していて、日本語（時々フランス語で）「日本のどこから来ましたか?」「好きな食べ物は何ですか?」などと日本

人学生が折り紙やあやとりを用意して行っていたので、一緒に楽しむことにしました。折り紙はフランスでも割とポピュラーですが、あやとりは初めて見た高校生も多かったようで、日本人学生にやり方を教えてもらって、すぐに「ほうき」や「架け橋」を覚えてしまった高校生もいたようです。

オルレアン大学で日本語を学んでいる学生との交流会も別途開催していたのですが、高校生との交流会もとても有意義で、今後とも、オルレアン大学のキャンパス内だけでなく、オルレアン市内、フランス全土に交流の輪が広がっていくことを期待しています。

クイズコーナー!

この写真は、とある海外の施設の入り口で見かけたものです。日本語で「無料の施設を吸う」と書いてあります。隠したところには、英語の表記が入るのですが、わかりますか?



(正解は17ページ!)

ローマに行くなら図書館、広場、路地歩き



国際コミュニケーション学部

塩山 正純

学生の皆さんにとって、わたしは中国語を教えるヒトの顔しかありませんが、じつは、「近代西洋人の中国語研究史」というのが研究テーマの1つで、時間を見つけてはヨーロッパ各地に出かけています。今回はなかでも縁あるローマの街を少し紹介してみましょう。

ヨーロッパでも、ローマはさすが法王様のお膝元。バチカンや国立、街中に点在する教会関係の各図書館が、貴重な資料を山のように所蔵しています。わたしがよく通うカサナテンセ図書館は元々、隣のサンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ教会の図書館として開設、1701年に公開され現在に至ります。最近『世界の夢の図書館』と言う本が話題になりましたが、カサナテンセもその歴史と荘重な佇まいで世界の有名図書館に負けていません。普通は研究目的でしか入れませんが、受付で上手いこと「来館の目的」が通じれば、運よく見学させて貰えるかも知れません。どの図書館も佇まいが美しく、叶うならばぜひ訪れたい建築物の名所でもあります。



写真1 (カサナテンセ図書館のホール)

ローマといえば、コロッセオ、カラカラ浴場、真実の口、スペイン広場など、見どころも数え切れませんが、なかでもサンピエトロ寺院などのバチカン・エリアは最大の見どころ。個人旅行なら、ターミナルのテルミニから64番か40番のバスに乗り、ナツィオナーレ通りを下り、

ヴィットリオ・エマヌエーレ二世通りを一気に行くのが一般的。バスの車窓からの眺めも壮観ですが、“走馬看花（物事の表面だけをみる）”の感も否めず。ここはひとつ、時間とココロにほんの少しのゆとりを持って途中下車。路地を歩いて、眼前に突然現れる史跡とローマの人と暮らしをちょっと覗いて見ませんか。なお、公共交通一日券は4回乗ればモトが取れる値段、観光にはぜひ一日券をお勧めします。



写真2 (ナヴォーナ広場近くのカフェ店頭)

テルミニとバチカンの往復で、四大河の噴水で有名なナヴォーナ広場の最寄り下車、北方向に広場を目指します。パンテオンや、さきのミネルヴァ教会に寄るのもお勧め。ナヴォーナからのお勧め路地は、広場を北に出てすぐ左から真っすぐ西へと続くコロナリ通り。端まで往復してもざっと15分。日本でもちょっと人気のイルビゾンテも



写真3 (コロナリ通り)

あったり、いわゆる寂れた裏路地ではありませんが、幅3メートル有るか無いかの狭い通りのひんやり心地よい空気の中を歩くのはなかなか爽快。さらに、ガイドブックには無いような美味との偶然の出会い。ローマの街角には「犬も歩けば棒に当たる」ほどのジェラットリアがありますが、ここの1軒は知る人ぞ知る名店。まず種類の多さに思わず脱帽、しかも味がまた格別。それは地下鉄ヴィットリオ・エマヌエーレ下車5分にあるローマ最大のPalazzo del Freddoと双璧。両方での食べ比べを是非お勧めします。街歩きに慣れてくると、同じジェラットリアでも、観光客目当ての店と、地元民に愛されている店との違いも分かってきます。お腹が下らない程度に食べ比べて、オリジナルのお気に入りランキングを作ってみてもいいかも知れません。



写真4 (コロナリ通りのジェラットリア)

広場なら、ナヴォーナとは大通りを挟んで南側、カンポデフィオーリもまたお勧め。夜明け前の空っぽの広場に、朝から昼は広場一杯を埋め尽くすテントで市場がたち、食料品から服屋まで様々なお店が沢山のお客で賑わいます。午後に市場が終わると、広場を囲む何軒ものレストランが野外席を出して、レストランのサークルが広場を一周。とても賑やかで美味しい空間が現れます。少々値は張りますが、湿気のないローマの青空、夜なら星空の下で食事というのも実に気分爽快です。

カンポデフィオーリから縦横に伸びる路地も抜群の雰囲気、東西南北どちらに足に向けても、路地ならではのステキな表情を満喫できます。なかでも、西に向かう2本の通り、ペレグリーノ通りとカッペッラーリ通りがお勧め。200メートルほどで合流し、さらに通りを幾つ



写真5 (カンポデフィオーリ)

か経由すると、数百メートルでテレヴェ川。眼前にひろがるのはバチカン方向の「絶品」風景。記念撮影にも最適のスポットです。時間帯としては、まだ街も半分眠っているような早朝がお勧め。澄んだ空気のほか、清掃や配達の一とすれ違うほかには、通りに居るのは自分を含めて僅かな人数だけ。黒光りする石畳の路を独り占め出来ます。

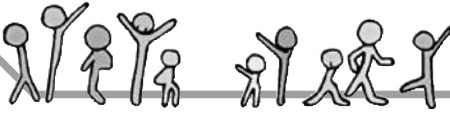


写真6 (ペレグリーノ界隈の水道)

わたしたちが、自分の家の中ではくつろいだり、知り合いとそうでない人とで表情を使い分けたりするように、ローマの人たちも、自分たちの空間では、非常にリラックスした「素の日常」を持っています。観光名所の土産物屋やレストラン、そしてブランドショップは、言わばローマの「よそ行き」の顔。そこしか見ずに満足するのは、ルックスだけを見て満足しているようなもの。普通のローマの人が普通に生活している空間まで足を伸ばせば、きっとローマの人と暮らしを、それぞれに肌で感じる事が出来るでしょう。

日頃アスファルトの道に慣れているわたしたちにとっては、石畳の路は結構足にくるもの。歩いてローマを楽しもうという人は是非スニーカーを用意して下さい。

炭鉱の町にルーヴル美術館がやって来た！



共通教育科目（フランス語）講師

田崎 明子

1. ランスってどこ？

今回お話ししたいのは、大聖堂で有名な Reimsではなく、Lens（発音は「ロンス」に近いかもしれないが、慣用に従ってランスと表記する）、パリ北駅からTGVで1時間余りのパ・ド・カレ県のかつての炭鉱町だ。今年が開戦100年に当たる第一次大戦で甚大な被害を受け、炭鉱の町として再生するも、鉱業の衰退・炭鉱の閉山とともに、すっかり寂れてしまっていた。1998年のFIFAワールド・カップ・フランス大会では、10会場の一つに選ばれたが、知名度はいまひとつ上がらなかった。

2. ルーヴル誘致に成功！

そのランスが、ルーヴル美術館分館建設地を、見事、射止めたのだ。国内外からのアクセスが良好で集客を見込めることも有利に働いたが、決め手になったのが、「駅近に広大な遊休地＝炭鉱跡地があること！」だったのは何とも皮肉な話だが、2009年の定礎式も、2012年の開館式も、鉱山労働者の守護聖人バルバラの日、12月4日に行われた。美術館の敷地からは、同じ2012年にユネスコの世界遺産に登録されたノール・パ・ド・カレ炭鉱地帯の構成要素でもある双子のボタ山（炭鉱の捨石の堆積した山）がよく見えたが、まるで、山が、炭鉱の町から芸術と歴史の町へと再生しようとしているランスを見守っているようにも見えた。

3. 障壁のない美術館

ルーヴル・ランス（le Louvre-Lens）のコンセプトは「障壁のない美術館」だ。まず、敷地全体が周りの景色に溶け込んでいる。門や囲い

はなく、どこか石庭を思わせる散歩道をぶらぶら歩いて行くと美術館にたどり着く。建物の設計を担当したのが、二人の日本人建築家（建築設計事務所SANAA）だということも嬉しい。ガラス張りのエントランスは開放的で、アルミニウムの外壁には周りの景色が柔らかに映し出されている。

展示方法も画期的で、従来のように、いくつものに分けられた部門別展示室の壁に作品が掛けられているわけではない。長さ120mの広々とした長方形の「時のギャラリー（la Galerie du temps）」に、紀元前3500年の古代文明の出土品から、19世紀半ばの作品までが、白い衝立状のパネルや台座を使って時代順に並べられ、見学者は、同時代の地中海世界、イスラム世界、ヨーロッパの彫刻、絵画、工芸品が隣り合って並ぶ中、時の大河をゆったりと下って行くのだ。

また収蔵庫や修復工房がガラス越しに常時見学できるようになっているのも、障壁のない美術館の試みの一つだろう。

4. 芸術と歴史の町として

観光案内所でもらった地図を片手に、中心街を歩くと、鉱業をイメージした力強い赤褐色のオブジェが、そこかしこに置かれていた。町の建物は、第一次大戦後の復興の際、厳密な復元を目指したもの、当時流行のアール・デコ様式を取り入れて建て替えられたもの、外見を保ちながら新技術を利用したものが混在しているようだ。日本人観光客丸出しでカメラを構える私に、「逆光よ。あっちから撮ったら」と教えてくれるマダムがいたり、運送屋のおじさんたち

が次々に「ポンジュール!」と気さくに声を掛けてくれたりするホスピタリティあふれる町だった。

5. 皆さん、ランスへ

まずは順調に見えるルーヴル・ランスだが、不安がないわけでもない。私自身、ドラクロワの『民衆を導く自由の女神』が、一年で早くもパリの本館に戻っているのは、ちょっとがっかりだった。やっぱり、集客の目玉になる作品の展示は欠かせないと思われる。アブダビに、もう一つ分館ができれば、そちらにも傑作が行くわけだし…と少し心配だ。

だから、美術館が大好きな人、世界遺産を踏破したい人、地元愛!のサッカーファン、地方分権論者、故郷の町おこしを模索する人、Tous à Lens!

《参考文献》

加藤研:「私とフランスー環境と溶け合う建築ー」『ふらんす』2013年2月号(白水社)

Hugues Demeude: *Louvre-Lens-L'esprit du lieu*, Musée du Louvre-Lens / Nouvelles Éditions Scala, 2013

[URL] <http://www.louvre-lens.fr> (ルーヴル・ランス美術館)



駅前のオブジェと巨大案内板:「美術館はあっちだよ」と指差す、愛らしい『マスター・ヘア』(2014.3.20)

[URL] <http://www.tourisme-lenslievin.fr> (ランスーリエヴァン観光案内所)



「障壁のない美術館」は風景の中に溶け込んでいる。



双子のボタ山が、「芸術と歴史の町」ランスの再生を見守っている。

**Tous
à Lens!**



開館から一年、宣伝の先頭に立っていた『自由の女神』はパリに戻ってしまったが…

明治は遠くなりけり－言葉の旅－（補2）

経済学部 葛谷 登

最近やっとスマイルズ（Samuel Smiles、1812－1904）の『自助論』（Self-Help）をオックスフォードの古典シリーズ（2002年）で全部見終わることが出来ました。スマイルズは海老池俊治「スマイルズ」によれば、「イギリスの社会改良家。スコットランドのハディントンに生まれ、エディンバラ大学で医学を修め、開業、リーズに移って、鉄道会社に勤めたが、66年隠退して、著述に専念した。主著『自助論』（59）は明治初年『西国立志編』として訳出され、立身出世主義の偏見をあおったにせよ、個性の尊厳を教えた。」（『新潮世界文学小辞典』、1966年、478頁）という人物です。彼の代表作の一つ『自助論』は初版が1859年に、二版が1866年に出ています。

渡部昇一「中村正直とサミュエル・スマイルズ」には次のよう書かれています。

イギリスでは個人教授について英語を学ぶほか、寝食を忘れて読書した。敬字ははじめのうちイギリスには先入観をもっていたようであるか、イギリスやイギリス人を直接に知るようになってからは、イギリスこそ日本の目指す理想国の手本であると確信するに至った。そしてイギリスの隆盛は、イギリス人の人格、職業観、忍耐心、独立心などによるところが多いことを看破した。幕府が瓦解したために、留学は約一年半で中断され、明治元年（1868年）六月に帰国することになった。そのとき親しくしていたイギリス人の H.U. フリーランドが、スマイルズの『セルフ・ヘルプ』をお別れにくれたのである。この本はそれより十年ほど前に出っていたが、敬字がもらったのは1867年の増訂版だった（講談社学術文庫『西国立志編』、545頁）。

1859年のオリジナルの初版本が愛知大学経済学部共通文献費にて購入され名古屋図書館に所蔵されています。オックスフォードのものは後

者（但し、1866年の序）の版に拠っていて、これは中村正直が読んだものと同じものであると思います。

原著を眺め終わって、それと『西国立志編』（学術文庫本）との差異に驚きました。『西国立志編』には「自助論第一編序」、「自助論第二編叙」、「西国立志編第四編序」、「西国立志編第五編叙」、「西国立志編第八編自序」、「自助論第九編自序」、「西国立志編序」（望月綱孟玉）が本文と同列に入っています。これらは中村正直等が自らの見解を日本語で述べたものです。当然本文にはないものです。また、『西国立志編』には人物ごとに見出しが付けられています。原著には取り上げられている人物が目次の箇所に章ごとにまとめて記されるのみで、本文の箇所に見出しは見当りません。この中村正直等による序や人物ごとの見出しが当時の読者にどれほど役立ったか、想像しても余りあるものがあります。21世紀の現在においても見出しのない原文は読むのが一苦勞です。原著と『西国立志編』の間には些か距離があるようです。

それでは原著の『自助論』と著者スマイルズについて焦点を当てて見てみたいと思います。幸い、オックスフォード版にはアルバータ大学（University of Alberta）のシネマ先生（Peter W. Sinnema, Associate Professor of English）が「紹介」（Introduction）をお書きになっておられます。それに従って逐一見てみましょう。

1. 「源と影響」（*Origins and Influences*）（vii－xiii頁）：『自助論』は経済的不安定さとラディカリズムの文脈で見られなければならない、それは「個」（individuality）と「自由」（liberty）の教えを尊び、労働者階級と下層中産階級の人々に社会的、経済的な成功の梯子を昇るように促しました。また『自助論』は1830年代と1840年代のラディカリズムの系譜を引くものですが、それ自身はラディカルな思想からの後退を示すものです。

2. 「サミュエル・スマイルズ」(Samuel Smiles) (xiii-xvi頁) : スマイルズはカトリックに敵対的なスコットランドの契約派の信徒キャメロン (Richard Cameron) (「キャメロン、リチャード」日本基督教団出版局『キリスト教人名事典』、424頁) によって1680年に設立された長老主義の厳格な教派であるキャメロン派の伝統のもとに育てられました。長じてキャメロン主義から離れ、啓蒙的な合理主義を好みました。彼は医者になった後、1939年には Leeds Times の編集者になり、紙上で自己改善 (self-improvement) について論じました。それは後期ハノーヴァー朝英国の思潮でしたが、『自助論』で述べられているのは中産階級のヴィクトリア朝的な道德主義でした。

3. 「『自助論』」(Self-Help) (xvi-xxiv 頁) : スマイルズは階級の境界が勢いを増して消滅しつつある社会で機会をいかに生かすかについて教えます。工業化は、社会的ヒエラルキーに占める個人の位置が、血統よりはむしろ技術と教育によって確定されるように、英国を変えて行きました。

4. 「『自助論』の遺産」(Self-Help's Legacy) (xxiv-xxviii 頁) : 1850年代までに中産階級は思うままに経済的欲望 (economic ambitions) を充足出来るように見えました。彼らは自分たちの社会生活を導く指針を必要としました。『自助論』は徳に基づいた勤勉によって不安定な中産階級の地位を保証しようとするものでした。彼の言う個人は優れた進歩的な人間であって、単に物欲を追求するような存在ではありませんでした。

以上要するに、スマイルズはヴィクトリア朝期の英国の経済的繁栄を背景にして勃興した中産階級に自らの拠って立つ道德を提示したと言えるのではないのでしょうか。

わたくしの手許にはこのオックスフォード版とは別にロンドンにあるスフィア・ブックス (Sphere Books) から出た1968年の版があります。そこにはトムソン (Lord Thomson of Fleet) の「まえがき」(Foreword, vii-viii 頁) とハリソン (Royden Harrison) の「あとがき」(Afterword, 261-275頁) が載せられています。

まず後者から見て行きたいと思います。ハリ

ソンとはどういう人なのでしょう。彼には邦訳として、田口富久治監訳『近代イギリス政治と労働運動 1860年~1970年』(未来社、1972年)、松村高夫・高神信一訳『産業衰退の歴史的考察：イギリスの経験』(こうち書房、1998年)、大前眞訳『ウェップ夫妻の生涯と時代—1858~1905年：生誕から共同事業の完成まで—』(ミネルヴァ書房、2005年) などがあるようです。

大前氏の「訳者あとがき」(363-365頁)によれば、ハリソンは1927年3月3日にロンドンに生まれ、2002年6月30日に世を去りました。オックスフォード大学で G.D.H. コール (Cole) 教授の指導を受け、「イギリス実証主義者と労働運動」(田口氏「訳者あとがき」『近代イギリス政治と労働運動』、306頁) という論文によって学位を得ました。1955年にシェフィールド大学の教員となり、1956年にはイギリス共産党を出てシェフィールド労働党に入りました。1966年にはウォリック大学に移りました。次に松村氏の「訳者あとがき」によれば、「ハリソンは、エリック・ボブズボームや E.P. トムソンと並ぶイギリス社会史・労働史の泰斗である。」(182頁) ということです。彼はシェフィールドでは十年の間、炭鉱労働者、鉄鋼労働者を対象とした労働者教育に携わりました (187-188頁)。研究者としてだけでなく、教育者としても際立っていたようです。

それでは以下に『自助論』の「あとがき」の中身について見てみましょう (原文は精確にして風格があります。内容をまとめるというよりは、重要と思われる部分を大まかな日本語に置き換え、それらを集めて並べることにします)。

『自助論』が世に出た1959年はダーウィンの『種の起源』、J.S. ミルの『自由論』、マルクスの『経済学批判』という古典的名著が出た出版界の実りの年でもあります。それはちょうど「英国資本主義の黄金時代」(the golden age of British capitalism) の中頃に当たりました。この黄金時代は穀物法の廃止 (1846年) やロンドン世界博開催 (1851年) に始まり、普仏戦争 (1870年-1871年) とパリ・コミュン (1871年) (以上、亀井孝高他編『世界史年表・地図』吉川弘文館、66-68頁) に終わりました。国民の生活は豊かになり、産業革命の痛みは過ぎ去りまし

た。米国やドイツなどは国民国家の形成のために奮闘の最中にありました。英国が産業革命の先駆者として工業と商業の面で圧倒的優位を誇りました。

スマイルズは「地方的」(provincial)で「都市中産階級的」(bourgeois)な教養の手引書として『自助論』を書きました。「地方的」の「地方」とはイングランド中部(the Midlands)と北部(the North)を指すようです。この教養はオックスフォードやケンブリッジに代表される古典的、文学的、貴族的な教養とは対照的でした。後者の教養はギリシア、ローマに淵源するヨーロッパ文化の遺産を継承しており、「関係性」(relatedness)、「成熟」(maturity)、「総合性」(comprehensiveness)を備えていました。他方、中部と北部の人々は商業に専念し、「マナーの洗練さ」(refinement of manner)はなく、宗教的感受性は「卑俗な積極性」(vulgar pushfulness)として現れました。この二つの教養は「文芸的能力」(literacy)と「数量的能力」(numeracy)(二つの訳語は松村・高神訳『産業衰退の歴史的考察』[76頁]に従った)として対比的に捉えられます。

スマイルズがスコットランド人であったことの意味は大きいものがあります。スコットランドはまた地方的、中産階級的な教養の形成に深く関わっています。オックスフォードとケンブリッジに対応するスコットランドの大学はエディンバラ大学とグラスゴー大学です。これらの大学は「開放的で民主的」(open and democratic)で「禁欲的で実践的」(austere and practical)でした。スマイルズが医学を学んだのはエディンバラ大学です。スコットランドの大学からはワット(Watt)、テルフォード(Telford)、マカダム(McAdam)、ジェイムス・ミル(James Mill)等が輩出されています。スコットランドの大学では近代的な学問が教えられ、政治経済学(Political Economy)のような分野が誕生したのです。

スマイルズは個々人に備わった千差万別の才能を意にかけず、不平等は個人の努力の差異によるものだと考えました。成功するために必要なものは、思想と行動を切り離す大学での書物中心の学習というよりはむしろ、「観察」

(observation)、「常識」(common sense)、「忍耐」(perseverance)だったのです。「人生の偉大な台所」(the great kitchen of life)で学んだ貧しい人々は裕福な人には与えられない機会を有していました。

彼はマンチェスター学派(the Manchester School)の正統的な急進派として自由競争を信奉していました。貧しさは成功し道徳的に卓越するための最良の刺激でした。「節約」(thrift)と「勤労」(hard work)があれば、成功出来るのです。

スマイルズは「独創的な或いは卓越した思索家や作家」(a thinker or a writer of high originality or distinction)ではありませんでした。その点においてJ.S. ミルとは対照的です。ミルは『経済学原理』(Principles of Political Economy, 1848)の中で「依存と保護の主義」(the doctrine of dependence and protection)を打ち出しました。ミルにとって救済の道具は「集団的な」(collective)自助でした。彼は生存を脅かされる給料生活者が生産者として団結し労働組合を作り産業を管理することができるよう、努力の組織化(organized effort)を希求しました。それは他者への兄弟愛、連帯と規律の美德を備えた集団的な自助でした。

スマイルズの『自助論』は下層中産階級と労働者階級に向けられた激励の言葉でした。1870年代には事情は変化し始めました。自助は自明ではなくなりました。18世紀の最後の四半世紀において四つの点からスマイルズの権威は失墜し始めました。

第一に近代産業の技術的基礎が変化しました。動力は蒸気から電気に変わりました。産業革命の時代には技術革新は独学の実践的なタイプの人々に負いました。新しい時代に大企業が必要としたものは専門的な技術であって、それは技術教育の制度に負います。この点において英国はフランス、ドイツ、米国に遅れを取りました。このような技術的、経済的変化が「自己修養」(self-culture)の働く余地を狭めていきました。

第二に大衆民主主義(mass democracy)が発展したことです。選挙制度が整備されることによってデズレーリやチェンバレンのような政

治家は競って社会改革の計画を提出するようになりました。スマイルズにとって「世話焼きのお婆さん政府」(grandmotherly government)や「家事を切り盛りするような国家」(housekeeping state)は進取の気性を損なうものでした。

第三の点は貧困の再発見が社会改革の行動計画の必要性を顕著なものにしたことです。1880年代にチャールズ・ブースによってロンドンの生活と労働に関する社会調査が行われました。彼の結論は首都人口の三分の一は最低限の生活水準以下で暮らしているというものでした。過労と不払い、虐待と教育の欠如という実情はスマイルズのメッセージへの疑問を投げかけました。

例えば、節約などの美德は国家が生活の最低条件を引き上げなければ実践不可能だという結論に至ったのです。同時にJ.A. ホブソンもまた節約は或る一点を超えると、労働力需要を低下させるので美德であるよりはむしろ悪徳であると述べました。スマイルズはほとんどすべての勤勉な人間は労働者階級から脱け出て、真の「ジェントルマン」のような暮らしが出来るものと固く信じていましたが、1873年にアルフレッド・マーシャルはスマイルズの信条はおもに技術に對価を支払われる軽工業の職人にのみ当てはまることであると論じました。

第四の点は生産技術の変化、英国経済と政治生活をめぐる状況の変化が道徳思想に変化をもたらし、「相互扶助」(Mutual-Aid)の理想が掲げられるに至りました。より利他的な道徳性が望まれるようになり、それが「社会的給付」(social provision)と「政府の規制」(government regulation)の増大増加の形で期待されました。

スマイルズの評価は国際的な視点からなされるべきです。近代産業の意味するものは最早蒸気機関や紡績機ではなく、電気とベルトコンベアーに変わっていました。個人的に技術を習得した職人ではなく、専門的に訓練された労働者が必要とされました。貯蓄や投資は企業や公的機関を通して展開されるようになりました。例えばドイツの場合は銀行で、日本の場合は「国家」(the State)でした。近代化の全行程はスマイルズの道徳性や成功の物差しではなく、それとは正反対のイデオロギーによって聖化され

(sanctified) 正当化され (legitimised) ならなければならないのです。

要するに、スマイルズは英国の資本主義が最盛期にあるまさにそのとき都市中産階級に拠って立つスコットランド的な思想の系譜に位置して独立自尊の自助を謳ったわけですが、個人レベルの自助をつなげて社会レベルの他助に展開していく視点が弱かったと言えるのではないのでしょうか。

最後にトムソンの「まえがき」を見ることにしましょう。トムソンは小松原久夫「トムソン」によれば、「Roy Herbert Thompson 1894-1976 イギリスの新聞経営者。イギリス移民の子としてカナダのトロントに生まれる。職業を転々と変えたのち、1931年カナダのノース・ベイで小さなラジオ局をはじめ、マスコミ界への第一歩をします。…その後52年にイギリスに渡り、…67年には高級紙《タイムズ紙》を買収する。…この間、63年に市民権を得て、またトムソン財団をつくり、64年には男爵の称号を与えられた。」(平凡社『世界大百科事典』第20巻、424頁)とあるように、まさに『自助論』に出てきてもおかしくないような立志伝中の人物です。

「まえがき」冒頭の段落は次のようにあります。

1900年台、トロントで14歳の少年であったとき、週給5ドルで或る木材会社の小僧として働いていた。当時の愛読書は・・米国人ホレイショ・アルジャーの物語であった。これらの「ぼろ着から富へ」という憧れ…において…わたしは同い年の貧しい少年がなべて勤労と正直さ、一連の幸運や偶然を通して名声と富を獲得したありさまを読んだ。わたしはこれらの物語を熱心に目を見開いて疑うこともなく興奮をもって読んだものだ (vii 頁)。

トムソンはスマイルズの『自助論』ではなく、アルジャーの作品を読んで発奮したようです。『コンサイス外国人名事典』(第3版)(三省堂)の「アルジャー」の項には、「Alger, Horatio 1832-99 アメリカの児童文学作家・牧師…ハーヴァード大学を卒業後牧師となるが、1866年にニューヨークに出て文筆活動に入る。貧しい

が正直な少年が努力と勇気をもって生き抜き、成功するというアメリカの夢をテーマにした児童小説を書いて人気を博した。」(44頁)とあります。邦訳として畔柳和代訳『ぼろ着のディック』(Ragged Dick) (松柏社、2006年)が出ています。路上で健気に生きる身寄りのない靴磨きの少年ディックの成功譚がフィクションの形式で書かれています。トムソン少年は自らの境遇をディックのそれに同定し易かったのではないのでしょうか。

高校の時だったか(大学の時だったか)、或る日NHKのテレビ中級英会話を見ていました。番組の中で今は亡き温顔の講師小浪充先生(当時東京外国語大学教授)が米国では(それとも「英米では」であったでしょうか)スマイルズの『セルフ・ヘルプ』は日本における『西国立志編』ほどに知られていず、同じような本としてホレイショ・アルジャーの本があるということをお話になられました。それ以来スマイルズの名前を聞くと、アルジャーを連想するようになりました。果たして「新聞王」とも呼ばれた(前掲百科事典、同頁)トムソンはアルジャーの作品の愛読者だったわけです。

わたしは『ぼろ着のディック』の翻訳を見てみました。スマイルズの『自助論』とは趣を大きく異にしていました。それは自助というより、他助の話でした。苦しい境遇にある少年同士が互いに助け合い支えあい、誠実に生きていくとき上昇の道が切り開かれるという内容のように思います。労働者と中産階級の間は断絶しきってはならず、前者から後者への移行の道が狭いながらも開かれているというものです。立身出世は単に個人のレベルで終わっては意味がなく、それが他者への支援、今の言葉でいえば社会貢献となるとき意味があるのです。米国資本主義の健全な社会倫理がここに如実に表わされているような気がします。

それではトムソンはスマイルズについてどのように語っているのでしょうか。

スマイルズは今日の時代の労働組合の組織については知らないけれども、彼が労働について書いていることは今日でもすべて正しい。彼は特別給与(fringe benefit)、必要のないストライ

キ、2人でごく簡単に出来るような仕事を6人でするようなシステムを今日の不満げな経営者と同じように反対することであろう。公正な給料(fair wages)と自由な企業(free enterprise)の擁護者として彼は人が自分の力で道を切り開き、自分の足で立つことを信じていたのである(viii 頁)。

トムソンによれば、スマイルズは今日の辣腕経営者の論理の擁護者になるわけです。ただこれは些か我田引水に近いものがあるように思います。彼にはJ.S. ミルのような社会科学的な問題意識或いは社会分析の知識が充分でなかったのでしょうか。それは彼が生まれ活躍したときが、英国が衆にぬきんで経済的な繁栄を謳歌したころに当たっていたという時代的特性に起因するもののようにも思われます。

さて日本ではスマイルズの『自助論』が中村正直によって翻訳され『西国立志編』として明治の時代のベストセラーになりました。当時、これを読んで人生が変えられた人も少なくなかったのではないかと思います。しかし、社会思想的に見れば、この作品は地域的、時代的特色を有し、相当に個別、具体的な性格の強いものです。明治日本の知識人がこの文章を読み、その本質的理解をしたうえで訳出するのは不可能に近いものがあつたのではないのでしょうか。

大久保健晴「明治エンライトenmentと中村敬宇(2・完)」によれば、「敬宇はその思想的営為のなかで、…ステュアートに体现されるスコットランド啓蒙思想・18世紀道徳哲学に親縁性を見いだしてきた。」(東京都立大学『法学会雑誌』第39巻、第2号、505頁)とあるように、中村正道はスコットランド思想、とりわけ18世紀のそれに関心の所在が収斂して行ったようです。どうやらスマイルズの著作もまたこの関心の同一線上に位置したと言うべきなのでしょう。妄言を憚ります。

〔付記〕語研にお勤めの胡麻本明子さんがこの3月に定年でご退職されました。拙文は胡麻本さんのお世話のもとで書くことが出来ました。記して感謝するものです。

街で見かけた 面白コトバ！

無料？ Free?

さて、このページから読み始めた方は、いったん7ページまでお戻りください。といっても、もう無理かもしれませんが（苦笑）、そちらで出題したクイズの答えを教えます！



いかがでしたか？「無料の施設を吸う」に対して、英語の方は SMOKE FREE FACILITY です。当たった人は、ある意味スゴイ！筆者は少なくともこれをはじめて目にしたとき、「なんじゃそりゃ?!」という感想しかありませんでした。

とはいえ、一応は英語を教え、研究している身ですので、マジメに解説を試みたいと思います。おそらくこれは英語の表現が先にあって、それを日本語訳して表示したかったのだと思います。しかし、何らかのやむにやまれぬ事情があって、どこかの無料翻訳サービスか何かを利用し、残念ながら結果を確認できる人もいなかったために、この摩訶不思議な日本語訳がそのまま残ってしまったということでしょう。

free には、通常の形容詞用法のほかに「～が

ない・～を免れた」という意味の接尾辞用法があります。この写真の SMOKE FREE も「煙草がない」＝「全館禁煙」ということを表しています。そこに気付かず、smoke を動詞「吸う」と取ってしまったために、こんな日本語訳が出来上がった次第です。図式化すると以下のようになります。

(正)

Smoke(-)free
(形容詞) 禁煙の

Facility
(名詞) 施設

(誤)

Smoke
(動詞) 吸う

Free Facility
(形容詞) 無料の (名詞) 施設を

しかし、これは必ずしも翻訳プログラムを責めるわけにもいきません。接尾辞用法のときは本来ハイフンを用いるのですが、実際に調べてみると、今回のように二語に分けて表記する例や、ハイフンなしで一語に連結してしまっている例など、様々です。機械は、こういった人間の柔軟性（という名のいい加減さ）に対応することが苦手なのです。うっかり無料翻訳サイトを使ってしまうと、こんな危険もあるのだということ、認識しておいて損はないのではないでしょうか。

ところで、日本でもかなり「ヤバイ」英語が店の看板やら、衣類のデザインやら、文房具のデザインやら、いろんなところに見られます。大昔に塾講師として教えていた頃、小4の女子が、Seduction! と大きく書かれたパンケースを持っていたときは、さすがにぎょっとしました。お互い気をつけましょう！（意味は調べてみてね！）

（経済学部 川端朋広）

2013 年度 外国語コンテスト結果報告



去る2013年11月に恒例の外国語コンテストが行われました。今年度も多くの学生たちが参加し、朗読、暗誦、自由作文スピーチ、歌など、多様な題目でそれぞれの力を発揮してくれました。表彰式で語研室長の田川先生が述べられたように、入賞者たちの外国語は本当に美しい響きでした。これからも是非、鍛練を続けてください！

結果は以下の通りです。講評等は語研HPにて閲覧できます。

英 語

開催日時：2013年11月1日(木) 14:00～
参加者総数：9名

課 題：自作スピーチ

入 賞 者：

- | | | |
|-----|-----------------------|-------|
| 1 位 | 現代中国学部3年 | 伊藤 純規 |
| | タイトル『True neighbors?』 | |
| 2 位 | 現代中国学部2年 | 岸 里佳 |
| 3 位 | 国際コミュニケーション学部4年 | 前田 朋広 |

ドイツ語

開催日時：2013年11月18日(月) 18:10～
参加者総数：9名

課 題：朗読

入 賞 者：

- | | | |
|-----|-----------------|-------|
| 1 位 | 経営学部1年 | 田中 圭子 |
| 2 位 | 法学部3年 | 西村瑳保理 |
| 3 位 | 国際コミュニケーション学部3年 | 倉橋 奈巳 |

フランス語

開催日時：2013年11月21日(木) 12:30～

参加者総数：14名

課 題：朗読

入 賞 者：

- | | | |
|-----|-----------------|-------|
| 1 位 | 法学部3年 | 高瀬 裕介 |
| 2 位 | 国際コミュニケーション学部3年 | 竹川 真未 |
| 3 位 | 経営学部1年 | 角田みわこ |

中国語

①対象学部：法学部・経営学部・経済学部・
国際コミュニケーション学部生

開催日時：2013年11月21日(木) 15:30～

参加者総数：12名

課 題：朗読

入 賞 者：

- | | | |
|-----|-----------------|-------|
| 1 位 | 国際コミュニケーション学部4年 | 岩手 良憲 |
| 2 位 | 法学部2年 | 谷川 和歩 |
| 3 位 | 経済学部2年 | 磯部 菜月 |

②対象学部：現代中国学部生

開催日時：2013年11月14日(木) 14:00～

参加者総数：10名

課 題：暗唱／自由

入 賞 者：

(課題部門)

- | | | |
|-----|----------|-------|
| 1 位 | 現代中国学部1年 | 安井 香瑠 |
| 2 位 | 現代中国学部1年 | 三屋 千明 |
| 3 位 | 現代中国学部1年 | 松浦 華 |

審査員特別賞

現代中国学部1年 本竹紗和子

(自由作文部門)

- 1位 現代中国学部2年 田中 緑
 タイトル『収获自信』
- 2位 現代中国学部2年 大澤 徳宏
- 3位 現代中国学部1年 花園あゆみ

ロシア語

開催日時：2013年11月19日(火) 16:30～
 参加者総数：33名

課題：朗読

入賞者：

- 1位 経済学部1年 酒向 貴史
- 2位 法学部1年 岸田 大樹
- 3位 国際コミュニケーション学部1年 宮田恵梨子
 国際コミュニケーション学部1年 山本 花

審査員特別賞

- 法学部3年 高木 美里
- 経営学部1年 辻村 慎志
- 経営学部1年 宮地 啓悟

韓国語

開催日時：2013年11月18日(月) 18:10～
 参加者総数：32名

課題：暗唱／自由

入賞者：

- 1位 経営学部2年 松尾 星伽
- 2位 経済学部3年 森 実希
- 3位 法学部2年 小島穂野花
- 審査員特別賞

現代中国学部4年 花園あゆみ

タイ語

開催日時：2013年11月19日(火) 16:30～

参加者総数：11名

課題：朗読／歌唱

入賞者：

- 1位 国際コミュニケーション学部1年 高馬 麻加
- 2位 経済学部1年 吉川 誠
- 3位 経営学部1年 柴山なな美
- 審査員特別賞 法学部1年 萩原 勇

日本語

開催日時：2013年11月26日(火) 12:30～

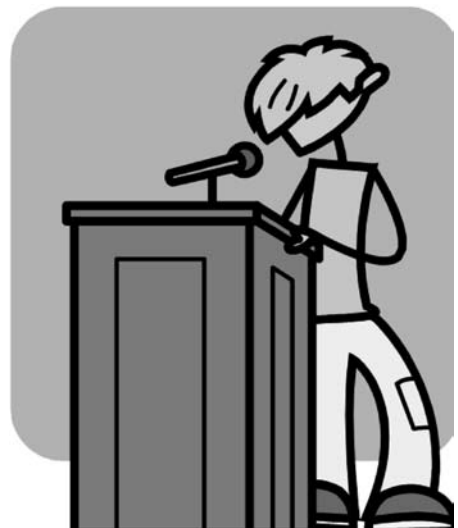
参加者総数：12名

課題：自作スピーチ

入賞者：

- 1位 協定留学生1年 金 知暁
 タイトル『「ありがとう」と言って
 ください』
- 2位 経営学部1年 張 恒瑋
- 3位 現代中国学部1年

ZHUDIKOVA Elizaveta



名古屋校舎国際交流センター主宰

「International Cafe」

のご案内



名古屋校舎国際交流センターでは、留学生と日本人学生が自由に触れ合うことの出来る場として International Cafe という企画を行っています。2014 年度春学期は、月曜日の午後 6 回ほど、図書館 1 階のミーティングルームを使用して行われました。今回は、5 月 12 日の会の様子をレポートします！

午後 2 時 45 分、開始時刻になると、参加者たちが集まってきます。すでに知った顔もあれば、初めて会う顔ぶれも。はじめはちょっと恥ずかしそうな様子ですが、グループ分けを決めて着席すると、自然に自己紹介が始まりました。

「言葉はどうしよう？」「じゃあ、留学生は日本語で、日本人は英語にしようか？」これも自然に決まっていきます。今回は中国からの留学生も参加していたので、時には中国語も飛び交っていました！



国際交流センターのスタッフから手渡されたトピックカードには、「カルチャーショックの経験は？」「自分の国の早口言葉は？」など、様々な話題が書いてあります。中には、「最初の乳歯が抜けたときどうする？」なんて質問も。屋根の上に投げ上げることをジェスチャーも交えて示しますが、「なぜ？」と聞かれると、「う～

ん？」となることも。

こういうことが起きるのも、異文化間での会話の楽しさでしょう。普段はあまり疑問を感じないことでも、見方を変えれば文化にはたくさんの疑問が隠されているのです。

約 1 時間のフリートークでしたが、参加者の皆さんはまだ話し足りない様子で、その後もテーブルで会話を続けていました。きっと今後も友人となり、お互いの言葉を使って様々な交流をしてくれることでしょう。

秋学期も実施予定とのことですので、興味のある方はぜひ参加してみてください。新しい友達もできて、きっと楽しいひと時を過ごすことができると思います。ちょっとした「学内留学」です。

それにしても、Peter Piper picked …、赤巻紙青巻紙…、早口言葉はどこの国のものも難しい！



豊橋校舎

「豊橋ランゲージセンター」

「Language Cafe」のご案内

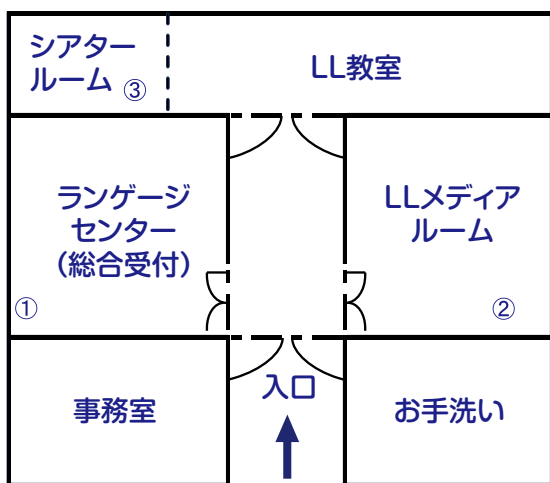


【①ランゲージセンター】

本学で開講している主要外国語の英語、中国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、日本語（外国人留学生用）をはじめ、世界35言語の資料を多方面から豊富に取り揃えています。資料形態は下記の通りで、所蔵数は約9,000点です。他ではみることのできない貴重な資料や教員・スタッフが推奨する資料が多くありますので、ぜひ語学学習に役立ててください。



- 定期購読資料（貸出可）…NHK 語学講座、英字新聞、語学雑誌など
- 図書資料（貸出可）………検定試験関連、授業タイアップ、速読本など
- 映像資料（貸出不可）……DVD、ビデオなど



3号館1階 ランゲージセンター

開室時間（月曜～金曜）9：10～19：00（土曜、夏季休暇など）9：10～17：00

【②LLメディアルーム】

個人ブース18席、ソファブース1席、パソコンブース5席を完備した自主学習ルームです。ランゲージセンターの資料視聴のほか、授業の予習復習やeラーニング、レポート作成など多くの学生に利用されています。

【③LLシアタールーム】

プロジェクターを使い、映像やパソコン画面を壁に投影し、大人数での情報共有を可能にした魅力ある空間です。リピーターが多く、ゼミやサークルなどどなたでも気軽に利用できます。(LL教室で授業がある時は、授業が優先となります。)



ソファブース



個人ブース



シアタールーム

【Language Cafe】※開催場所は①ランゲージセンター内です。

Language Cafe は、英語、フランス語、中国語のネイティブスピーカーの教員と、授業以外の空間で様々なアクティビティを通して、活きたコミュニケーション能力を養い、その国の「ことば」と文化、世界観を幅広く学ぶことのできる空間です。在学生なら自由に参加ができ、毎日参加する常連学生や昼休みにはオープンカレッジ生も参加しています。

お昼休みはランチをしながらおしゃべりを楽しみ、夕方はボードゲームやインターネットを使ったアクティビティなどをし、ハロウィン（英語）や公現祭（フランス）など旬の行事をテーマにした時期には、それぞれの Cafe でパーティを開いて現地の文化を体験しています。

開催から3年目に入った今も、常に参加者たちの活気に満ちたこの Cafe で、外国語の言葉や文化、Cafe 仲間との交流を深めていってください。



月曜～水曜【English Cafe】
12:40～13:15/16:40～



火曜【中文茶座】
12:40～13:15



金曜【Café Français】
12:40～13:15/16:40～

愛知大学語学研究室ホームページ（施設紹介）
<http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/kyoshitsu.html>



英語・中国語 e ラーニング (ALC Net Academy 2) の紹介



e ラーニングは、コンピューターを使って学生が自分のペースに合わせて無理なく自由に学習ができる Web 学習システムです。Universal Passport のアカウントとパスワードでログインができ、学内および自宅から 24 時間無料で利用ができます。

本学では ALC NetAcademy2 を導入し、下記 6 コース（英語 5 コース、中国語 1 コース）を用意しています。2014 年度からは英語「スーパースタンダードコース」を新たに導入しました。TOEIC 試験対策や総合英語学習の向上、中国語の重要な発音特訓など、豊富な問題数と幅広く工夫された学習で語学力のスキルアップが望めますので、ぜひ利用してみてください。

※スマートフォン、携帯電話には対応していません。

英語

【スーパースタンダードコース】 New!

- 特徴① 学習前と学習後のレベル診断テストで、学習の到達度を測定
- 特徴② ディクテーションやシャドーイングの反復学習で、英語力を強化
- 特徴③ 1 回 30 分の演習問題で、効率的な TOEIC テスト試験対策

【スタンダードコース】

- 特徴① 初心者から上級者まで幅広いレベルに対応
- 特徴② レベル診断テストで現在の語学力を測定
- 特徴③ 問題数 182 ユニット
- ※このコースの「TOEIC テスト演習」は、旧形式となります。

【初中級コース】

- 特徴① 初級、中級者向けの TOEIC 試験対策
- 特徴② リーディング、リスニング力の強化
- 特徴③ 問題数 59 ユニット（900 問）
- 特徴④ TOEIC テスト対策をパートごとに徹底攻略
- ※パート別学習は、本コースのみ

【powerwords コース】

- 特徴① すべての学習者（入門～上級者）に対応
- 特徴② SVL12000 に準拠した英単語学習
※ SVL12000 = 標準語彙水準
ネイティブの使用傾向を基に、日本人英語学習者に必要な語彙を、「有用性」「重要性」を考慮して 12 のレベルに区分したものの。(1 レベル = 1000 語)
- 特徴③ 就職活動にも有効な IT 用語、略語、カタカナ語、四字熟語、日本語一般基礎学習
- 特徴④ 問題数 733 ユニット

【TOEIC テスト演習 2000 コース】

- 特徴① TOEIC 試験対応のテスト専用コース
- 特徴② TOEIC 本試験を 3 つの受験パターンから徹底的に学習（2 時間 / 1 時間 / 30 分）
- 特徴③ プレリスメンテストや実力テストの幅広い用途に対応
- 特徴④ 問題数 70 ユニット（2000 問）
- ※本コースは、各ユニット 1 回しか受験ができません。時間に余裕をもって取り組んでください。

中国語

【中国語コース】

- 特徴① 入門～中級レベル（中国語検定 3 級レベル）の語学力を養成
- 特徴② 中国語学習に欠かせない発音・ピンインを楽しく徹底的に学習
- 特徴③ 語彙と会話を統合したシチュエーション別学習（学校 / ビジネス / 旅行 / 生活 / 文化）で、目的に合わせた効率的な学習が可能
- 特徴④ 中国語検定準 4 級～3 級本試験のハーフサイズテストを用意

2014年度 外国語検定奨励金のご案内

言語	名古屋校舎		豊橋校舎	
	試験名称	基準	試験名称	基準
英語	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	実用英語技能検定（英検）	2級以上
	TOEFL iBT	50点以上	TOEIC	530点以上
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B級以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	3級以上	TOEFL iBT	50点以上
	日商ビジネス英語検定	3級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上
フランス語	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上
	DELFS・DALF	A1以上	DELFS・DALF	A1以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
中国語	中国語検定	4級以上	中国語検定	4級以上
	新HSK	3級以上	新HSK	3級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	4級以上	ロシア語能力検定	4級以上
韓国・朝鮮語	ハングル能力検定	4級以上	ハングル能力検定	4級以上
	韓国語能力	2級以上	韓国語能力	2級以上
タイ語	タイ語検定	4級以上		
	実用タイ語検定	3級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1級	日本語能力（JLPT）	N1級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	450点以上
☆中国語は現代中国学部を除きます				
英語 TOEIC は教務課にて申請 2015/2/28 締切 詳細は Universal Passport 参照		650点以上		

受付け期間 名古屋校舎 2015年1月31日まで
 豊橋校舎 2015年2月14日まで
 ※詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。
 奨励対象者 学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・オープンカレッジ生等は除きます）



〈編集後記〉

今回の特集はいかがでしたか？中国語の先生がヨーロッパに詳しくったり、英語の先生がハンガリーの温泉を紹介してくれたり等、様々な驚きがあったのではないのでしょうか。また、フランス語の先生方も、単なる観光案内にとどまらない、興味深い情報を伝えてくれています。海外を訪れる際、本や雑誌、インターネットで調べるのはもちろんのことですが、身近にいる先生方にも声をかけてみてはいかがでしょうか。雑誌等では得られない、「生」の情報がもらえるかもしれませんよ！（T.K.）